

おとうさんのまほうのむぎちゃ

あいざわ はやと
相澤 勇斗

夏休み中、ぼくは学校のプールに行きました。あさからとてもあつくて、プールにびつたりの日でした。おとうさんが、

「のどがかわいたらむぎちゃをのむんだよ。ねつ中しように気をつけてね。」

と言ってむぎちゃの入った水とうをわたしてくれました。水とうをもったしゅんかん、いつもおかあさんがもたせてくれる水とうのおもさとちよつとちがいました。おもいゝくびに水とうのひもをかけるとくびがいたくなくなったので、手にもってプールに行きました。

学校のプールは十五分に一回、五分の休けいがあります。休けいの時に水とうのむぎちゃをのんだけど、ぜんぜんへっているかんじがしません。おもも、あさの時と同じ。プールでいっぱいおよいで、のどもかわいてこんなにいるのに、なんでぜんぜんへらないだろう。

いえにかえてからおとうさんに、

「むぎちゃ、のんでものんでもぜんぜんへらなかつたよ。このむぎちゃは、のんだら分だけふえるまほうのむぎちゃなの。」とすこしもんくを言っていました。すると、ぼくよりおくれでプールからかえてきたおにいちゃんも、同じことを話していました。おとうさんはなにも言わずに、ぼくとおにいちゃんの水とうをあらっていました。その時、ぼくはあることを思い出しました。前におにいちゃんと公園にあそびに行った時、水とうのむ

ぎちゃをぜんぶのんでしまつて、公園の水どうの水を入れてのんだことがありました。でも水どうの水はおいしくなくて、やっぱりいへのむぎちゃがおいしいねとおとうさんに話したことがあったのです。ぼくはその時、はつとしました。おとうさんは、水とうをおもくしようとしたんじゃない。まほうの水とうをもたせてくれたのでもない。ぼくとおにいちゃんのむぎちゃが足りなくならないように、多めに入れてくれたんだと。おとうさんに、なんてあやまろうか分からなくて、そのことをおかあさんに話したら、

「勇斗とおにいちゃんへのあいじようが、水とうにいっぱいに入っていたんだね。」

と言われました。そうか、おとうさんのやさしさだったんだ。そう気づいたぼくは、おとうさんにあやまるのではなく、かんしゃのおもちをつたえることにしました。

「おとうさん、むぎちゃが足りなくならないようにいっぱい入れてくれてありがとう。そのおかげでパワーがいっぱい出て、たのしくおよげたよ。おとうさんのむぎちゃ大すき。また水とうにむぎちゃをいっぱい入れてね。」

ぼくの水とうには、おとうさんの思いがいっぱいつまった、とってもおもくてつめたいむぎちゃが入っています。でもころろがあたたくくなるまほうのもの、おとうさんのまほうのむぎちゃです。